

平成30年度第2回学校評議員会記録

岩手県立盛岡北高等学校

- 1 日時 平成31年2月21日(木) 10:30～11:55
- 2 場所 本校応接室
- 3 出席者 竹村祥子 評議員、小宮山晴夫 評議員、  
神部伸也 評議員、沼田美也子 評議員  
佐藤一義 校長、嶋 隆 副校長、藤田幸一 事務長、  
勝又慎介 教務主任、三浦 穰 生徒指導主事、  
及川 満 進路指導主事、葛西 崇 総務主任、  
久保 幸 総務課担当

4 内容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 本年度の取組概況等説明

1 秩序ある生活態度の育成安全教育の徹底

(学校評議員)

地震や火災を想定した避難訓練以外に、岩手山の噴火に備えた避難計画を立てるべき。

災害時のさまざまな状況を想定した避難訓練や防災教育について、滝沢市に協力をお願いしながら進めていきたい。

2 主体的学習態度の育成と学力向上の推進

(学校評議員)

家庭学習等に向かう生徒の自主性を伸ばし、評価してほしい。

3 学習指導内容の精選と指導法の工夫・改善

(学校評議員)

定期考査欠席者に対して多様な対応が求められてきてはいるが、一方で公平性を欠いてしまわないかという懸念がある。

4 自己実現を見据えた進路指導の充実

5 部活動の振興と生徒会活動の活性化

(学校評議員)

中学校や高校でのボランティア参加経験が大学におけるボランティア活動につながっていないという現状がある。大学でボランティアに参加する際には、申込みや準備の段階から自主的に取りかからなければならない。高校でも主体的に取り組ませるべきではないか。自主的な取組の方が、生徒が得るものは大きい。

6 家庭・地域との連携と地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進

(学校評議員)

登校時一声運動(挨拶運動)は個々の生徒の様子を把握できる良い機会でもある。また、挨拶ができる生徒を育てるためにも取り組みを強化してほしい。

7 「チーム盛北」としての組織対応とコンプライアンス意識の醸成

(4) 平成30年度学校評価アンケート報告

(学校評議員)

- ・結果を学年毎に分析してはどうか。
- ・「いじめへの取り組みが積極的である。」について、生徒より保護者が低評価であるのは、いじめであるかどうかの線引きの仕方に意識の差があるからではないか。
- ・いじめについては、学校内で対応しきれないものもある。困ったときに頼れる外部の相談機関を知らせていかなければならない。
- ・先生に相談できないことはあって当然ではないか。そういう意味でも、外部の相談機関を生徒や保護者に知らせる必要がある。

(5) 意見聴取

- ・進路指導に限らず、子供たちが人間として成長していくためには何が必要かを念頭において対応してほしい。進路指導の成果を最重要視しない人も地域にはいる。
- ・自転車の乗り方や挨拶について、もっと指導してほしい。
- ・挨拶をすれば返してくれる生徒が多い。自転車の乗り方についての指導は引き続きお願いしたい。
- ・新聞紙上などで本校生徒や卒業生の活躍を見る。本校の教育の成果が現れていると感じている。
- ・以前と比べ、線引きが難しい事案や目に見えない(実体のない)事案に対応しなければならないことが学校で増えていると感じている。

(6) その他

(7) 閉会